

対談市町名	対談項目	各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
1 桑名市	対談項目1 地域鉄道の存続について	<p>北勢線は、桑名市、いなべ市、東員町の2市1町で支援し、養老鉄道は、桑名市から岐阜県揖斐川町まで沿線3市4町で第3種鉄道事業者の新法人を設立しようとしています。両者ともに、利用促進に取り組んでいますが、財政的にも厳しい面もあり、まず、三重県のローカル鉄道の支援に関する取り組み姿勢や考えをお聞かせください。</p> <p>県域を跨ぐローカル鉄道は、県内では養老鉄道のみですが、当該鉄道に対する財政的支援について、岐阜県と三重県では考え方に隔たりがあると感じています。岐阜県は県の単独補助として財政的支援を行っています。三重県はありますか。岐阜県と同様のスキームで取り組んでいただくことはできないでしょうか。</p> <p>今回養老鉄道について第3種事業者である新法人を立ち上げるにあたり、近鉄との協議が必要となります。この協議が円滑に進むように県の配慮をお願いします。</p> <p>養老鉄道の利用促進については、人口減少が進み、定期利用者の伸びが期待できないなか、薬膳列車イベントなど、定期外の利用促進をはかる様々な取組を行っています。県には、県内のローカル鉄道の利用促進の取組のネットワーク化などに協力いただようお願いいたします。</p> <p>JRとローカル鉄道との協働についても、県が中に入ってコーディネートしていただければと考えており、県のコーディネート、知事の発信力に期待しています。</p>	<p>四日市のあすなろう鉄道も同様ですが、県の財政的支援として、基本的にハードの整備については、国と協調して取り組んでいくこととしています。</p> <p>運営に関しては各事業者にお任せしたうえで、利用促進に関する取組については、様々な協議会等において委員として参画し情報発信するなど、ともに連携、協力して行っていくことだと考えています。</p> <p>養老鉄道については、岐阜県とは、支援に至る経緯・背景に相違があります。また、三重県民の税金をどう配分するのかということにおいて、岐阜県に合わせることで論理的に整合性があるのか検討する必要があります。三重県としては、あすなろう鉄道など県内の他の事業者に対する取り組みとの兼ね合いなどから、県単独の補助制度を創設するのは困難であり、国と協調補助をするスタンスをとっています。</p> <p>新法人の設立にあたっては、三重県も養老線地域公共交通再生協議会に委員として参加しており、必要な協力は行っていきたいと思っています。</p> <p>ローカル鉄道の利用促進については、三岐鉄道北勢線、あすなろう鉄道でナローゲージ路線数が日本一であることを県ホームページの三重県の日本一というコーナーで6月から掲載しています。また、観光でナローゲージなど県内にある乗り物を徹底的に紹介したガイドブック「たのしいみえののりもの」を2万部作成し、好評によりさらに2万部増刷し発信しています。また北勢エリアマップを10万冊発行、その他、三重テラスでイベント「三重の地域鉄道大集合！」の実施など、交通政策の観点だけでなく、観光政策の観点など様々な観点から利用促進に資するよう取り組みを行っており、今後も連携して進めていきたいと考えているのでよろしくをお願いします。</p>
2 桑名市	対談項目2 三重県及び桑名市の今後の国際観光について ～伊勢志摩サミット及び2016年ジュニア・サミットin三重を終えて～	<p>本市も、初めての国際会議を開催した経験を踏まえて、次のMICE誘致につなげたいが、国際交流に係る事業については、市の事業と県の事業のコラボレーションはできないかと考えています。MICEの誘致に関しては、今回、長島リゾートでもてなしは好評でしたので、県は、伊勢志摩だけでなく、北勢地域でのMICE誘致にも取り組んでいただくようお願いいたします。</p> <p>また、産業観光において、例えばエイベックスの工場見学に市内他所の見学を付け加えることなどにも取り組んでいきたいので、県もMICEの枠組みを広げていただき共に取り組んでいただきたいと思います。</p> <p>ジュニア・サミットの通訳ボランティア55名が、新たに「桑名市国際通訳ボランティア連絡協議会」を設立し、MICEに協力していただける意向であり、この方たちを活用していきたいと考えていますので、県にも協力していただきたいと思います。</p>	<p>平成27年度には、国際理解・国際交流プログラムをG7の各国を中心とした内容で91回、小・中学校で実施し、今年度も継続しているところです。平成29年度以降はどういう形になるかわかりませんが、いろいろな事業を考えたいので、市町としっかり連携していきたいと思っています。</p> <p>MICEは、来訪者の消費する金額が30万円くらいで、平均的な旅行者の消費額14万円と比較すると高くなっています。また、MICEでの来日は円高などの景気動向に左右されにくく、キャンセルとなるケースが少ないため、安定的な消費が見込めます。また、MICE参加者の規模は250人未満が6割となっており、三重県で開催しやすい時代となっています。桑名市は外国人が好むホテルがあり、名古屋に近いという優位性があり、市民会館等も整備され、六華苑など、ユニークベニューもたくさんありますので、県内でもMICEの誘致に関して優位性がある場所だと思っています。今後の国際会議は、環境関係は四日市市で、女性活躍にかかわるフォーラムは鈴鹿市で予定しており、県全体で取り組み協力してやっていきたいと考えています。</p> <p>インセンティブ旅行は、その後の産業交流にもつながっていく可能性が高いので重要であり、また、桑名市にはコンパクトにもものづくりの拠点が集積しており、向いていると思いますので、積極的に展開したいと思っています。</p>

対談市町名	対談項目	各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
3 桑名市	対談項目3 小・中学校における国際理解教育の推進について	英語教育に関しては、この地域に残る子どもたちの語学力を上げ、コミュニケーションの取れる人材を育てることが必要です。具体的には桑名西高校に英語科、国際コミュニケーション科のような、しっかりしゃべれる人材を育てる学科をつくっていただきたいと思っています。 エイベックスなどを見ると、コミュニケーションをとれる人材が、各企業に一人いればいいんだと、そのような人材がうまく張り付けられるようになれば良いと思います。	一部ではなくすべての高校で英語力を向上させていくとともに、小・中学校での英語教育の改善のところに力点を置くこともよいと思っていますので、市町教育委員会と連携して行っていきたいと考えています。 科の再編などは、子どもが減っていますので何かとスクラップアンドビルドとなる可能性がありますし、地域のニーズを踏まえる必要がありますので、そこは地域の皆さんとよく話さないといけないと思っています。
4 桑名市	対談項目4 「桑名石取祭の祭車行事」のユネスコ無形文化遺産登録について	11月28日から12月2日にユネスコの会議が開かれて、おそらくそこで山鉦屋台保存会に登録されている、33の「山・鉦・屋台行事」が登録されると思いますが、横のネットワークが弱いので、桑名の石取祭だけでなく四日市のくじら船とか伊賀のだんじりもあるので、うまくつなげてもらい、県の方で積極的に取り組んで発信していただくようお願いいたします。	今回登録されれば、三重県で初めての登録となります。登録が決まればパネル展を、三重テラスや県内3か所で開催し、併せて三重県総合博物館でも紹介していきたいと思っています。日本語と英語で3つの祭りを紹介するPR動画の作製など、登録の機会を活かし、市と一緒に積極的に情報発信していきたいと思っています。